


(仮称) 次世代型スポーツ施設の整備について


令和5年9月25日・29日
さいたま市 スポーツ文化局 スポーツ部 スポーツ政策室

■ さいたま市の状況

- 上質な生活都市、東日本の中核都市をめざしてまちづくりを推進中
- あと10年足らずで人口はピークを迎え、その後は減少局面へ



市民の皆さんの健康で心豊かなくらし、コミュニティの活性化、
地域経済の活性化への取組が不可欠



■ スポーツがもつさまざまな力をまちづくりに生かしていくことが大切

- 「みるスポーツ」による、にぎわい創出、地域経済の活性化
- 「するスポーツ」による、心身の健康づくり、仲間づくり、コミュニティの活性化

与野中央公園に係るこれまでの計画等

	与野中央公園	施設案
昭和63年度	中央公園基本計画	<ul style="list-style-type: none">● ゲートボール場、球技場● 多目的体育館● テニスコート（既設 4面）
平成5年度	与野中央公園基本設計	<ul style="list-style-type: none">● ゲートボール場、球技場● 多目的アリーナ● テニスコート（既設 4面）
平成27年度	与野本町駅周辺地区 まちづくりマスタープラン	<ul style="list-style-type: none">● 複合スポーツ施設等の整備に向けて検討 ＜取組例＞ <u>与野体育館等の既存スポーツ施設の複合化</u>
令和2年度	さいたま市の公園における 公民連携事業等 導入可能性調査	<ul style="list-style-type: none">● 複合スポーツ施設<ul style="list-style-type: none">・ メインアリーナ・ サブアリーナ・ プール
令和5年度	（仮称）次世代型スポーツ施設基本計画	<ul style="list-style-type: none">● 次世代型スポーツ施設<ul style="list-style-type: none">・ メインアリーナ・ サブアリーナ・ 結節空間

計画上の位置づけ

総合振興計画基本計画実施計画（R3～R7）

■ 次世代型スポーツ施設の誘致・整備

- ・ プロスポーツを始めとするスポーツイベント・大会やエンターテインメントイベントの開催等による採算の重視とデジタル技術を活用したスポーツ施設の誘致・整備により、来街者の増加による地域振興を図るとともに、需要分散による市民や地域クラブの既存施設の利用機会の増加を図ります。
- ・ 地域のスポーツを「する」、「まなぶ」場を充実するために、可能な限り民間力を活用した新たな整備・運営スタイルによるスポーツ環境の充実を図ります。

■ 大規模公園の整備推進

【与野中央公園】みどりと水辺が豊かな居心地の良い空間を創造するとともに、スポーツ・レクリエーション機能の維持・充実を図るため、広場及び複合スポーツ施設等を配置し、地区内外から多くの人々が訪れ交流できる公園を整備します。

与野本町駅周辺地区 まちづくりマスタープラン（H27～）

■ リーディングプロジェクト1-② 与野中央公園整備によるみどり拠点の強化

- ◆ 複合スポーツ施設等の整備検討
 - ・ 複合スポーツ施設等の整備に向けて検討
 - ・ 複合スポーツ施設等の整備に併せて、防災機能の強化

第2期スポーツ振興まちづくり計画（R3～R7）

■ 次世代型スポーツ施設の誘致・整備

- ・ 将来的にも持続可能なスポーツ環境の提供に向けて、可能な限り民間力を活用した「する」、「みる」、「まなぶ」場を整備

スポーツ施設の整備方針（R3～R7）

■ 次世代型スポーツ施設

- ・ プロスポーツや国際試合等が行える「みるスポーツ」の拠点施設（5,000席以上の観客席）

■ 与野体育館

- ・ 市民大会等が行える「みるスポーツ」と市民の日常的なスポーツ活動を行える「するスポーツ」の機能
- ・ 与野中央公園の整備に合わせて与野体育館と同規模の競技場床面積を確保しつつ、観客席の整備を検討
- ・ より効果的・効率的な管理運営等について、民間のノウハウや活力を積極的に取り入れながら、再整備を検討

与野中央公園に「みるスポーツ」の拠点と与野体育館の機能を継承する「次世代型スポーツ施設」を整備

なぜ、与野中央公園に整備するのか

スポーツがもつさまざまな力をまちづくりに生かしていくために
「みるスポーツ」、「するスポーツ」の拠点が必要

旧与野市からの
スポーツ施設の
整備計画

地区内外から
多くの人を訪れ
交流できる
公園整備の目標

中央区役所周辺
や与野本町駅周
辺との連携・強化
による
未来に向けた
中央区のまちづくり

老朽化した与野
体育館の機能を
受け継ぐとともに、
新時代に求められ
る施設の必要性

与野中央公園に民間力を活用した
(仮称) 次世代型スポーツ施設を整備することが**適当**

施設整備の方向性

「みるスポーツ」の拠点を新たに整備するとともに、与野体育館の機能を継承する

【施設の規模や期待される役割】

- 「みるスポーツ」を中心に多様な興行で活用するメインアリーナを整備
(収容人員5,000人程度※) ※さいたま市スポーツ施設の整備方針(令和4年3月策定)
における「みる拠点」の施設規模
- 「するスポーツ」の役割、地域交流・地域活性化を推進するサブアリーナを整備
(与野体育館と同規模の競技場床面積を確保※) ※さいたま市スポーツ施設の整備方針(令和4年3月策定)
における与野体育館建替再整備方針
- 「メインアリーナとサブアリーナ」、「次世代型スポーツ施設と与野中央公園」という
2つのつながりを生かし、人々のつながりを演出
- これまでになかった利便性の提供や最先端技術を活用した新たなサービスを提供



域外からスポーツをはじめとする興行や人を呼び込む



地域活性化のエンジンの役割を果たす

メインアリーナの規模

<メインアリーナの収容人員>

【さいたま市スポーツ施設の整備方針】

「みる拠点」として、プロスポーツや国際試合等が行える、5,000席以上の観客席を設けることを位置づけ

【与野本町駅周辺地区まちづくりマスタープラン】

みどりと水辺が豊かな居心地の良い空間を創造するとともに、スポーツ・レクリエーション機能の維持・充実を図るため、広場及び複合スポーツ施設等を配置し、地区内外から多くの人々が訪れ交流できる公園を整備

- プロバスケットボール「Bリーグ」では5,000席以上の観客席を有するアリーナの整備を要請（いわゆる「新B1基準」）
- 民間事業者へのヒアリングから、5,000人程度の興行のパッケージ化が見込まれる中、首都圏に同規模のアリーナは少なく、興行の受け皿整備によって、市内経済のさらなる活性化につなげていく必要性

- 与野中央公園整備の基本方針に、公園のコンセプトとして「市民のコモンスペース・郷土の原っぱ」が示されている。
- 与野中央公園における緑地空間の十分な確保を求める地域住民の意見を最大限尊重することが必要

メインアリーナの収容人員は5,000人程度が妥当

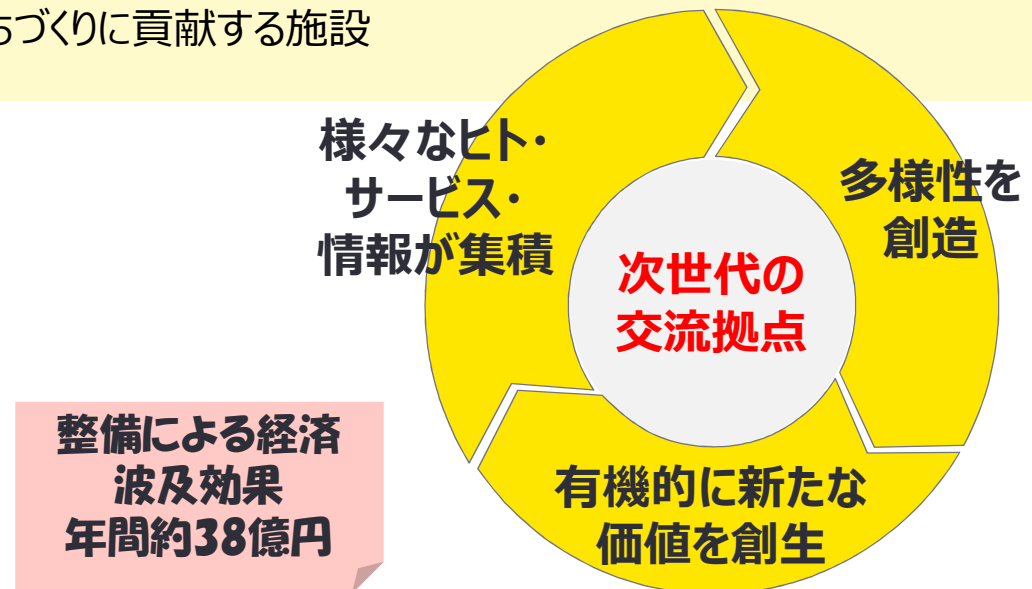
コンセプト（基本理念）

簡単にまとめると…

- **地域経済やにぎわいづくりに貢献**できる施設
- **関わる人すべての健康やしあわせに貢献**する施設
- **地域の方に多様なサービスやプログラムを提供し、まちづくりに貢献**する施設

“みるスポーツ”をはじめとした域外からもたらされるコンテンツや交流人口に伴う熱量、経済的な価値が地域に還元されるとともに、関わるすべての人のウェルビーイングの向上に貢献する施設

地域の“するスポーツ”の拠点としてだけでなく、体育館の役割が再定義され、利用者や地域住民に多様なサービスやプログラムを提供し、まちづくりに貢献する施設



対象地



所在地	さいたま市中央区新中里4丁目7-2 ※整備予定エリアは中央区鉢谷9丁目地内
公園敷地 全体面積	81,000㎡ (与野中央通りの東側含む)
都市計画 区域区分	市街化調整区域
都市計画等 による制限	都市計画公園 (都市公園法による施設規模等の制限有)
景観計画区域	景観保全区域

利用イメージ



新たな利用価値・利便性の向上に資する最先端のデジタル技術

平時から活用可能な防災、環境機能（コージェネレーション、災害備蓄倉庫等）

※ コージェネレーション：天然ガス等を燃料にして、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる排熱も同時に回収するシステム

【注意】上記イメージは模式的に描いたものです。
施設の面積、大きさ、形状、配置などは、民間事業者からの自由な提案をもとに今後決定していくため、現段階では全て未定です。

想定する利用シーンなど

想定利用シーン

想定する機能・スペック

メインアリーナ

- ① Bリーグ等のプロスポーツ興行
- ② アイスショー
- ③ プロレス、格闘技興行
- ④ ショーイベント
- ⑤ ニュースポーツ（アーバンスポーツやe-Sports等）のイベント・大会
- ⑥ 企業コンベンション・展示会
- ⑦ 大規模市民大会等

延床面積	<ul style="list-style-type: none"> • 12,000㎡ 程度
床面	<ul style="list-style-type: none"> • コンクリート土間床 • アイスリンク設備対応
収容人数	<ul style="list-style-type: none"> • 5,000人程度
想定設備	<ul style="list-style-type: none"> • 大型映像装置 • 照明、音響設備※演出対応
付帯施設	<ul style="list-style-type: none"> • VIPルーム、ラウンジ • 各必要諸室

サブアリーナ

- ① 市民の健康増進及び域内のスポーツ振興（屋内競技等の練習や交流試合）
- ② 各種スポーツ教室等の開催
- ③ 市民大会等の開催
- ④ 域内の人々の交流・憩いの場（ワークスペース等）

競技場面積	<ul style="list-style-type: none"> • 1,200㎡ 程度
床面	<ul style="list-style-type: none"> • 木床
収容人数	<ul style="list-style-type: none"> • 200~500人程度
想定設備	<ul style="list-style-type: none"> • 照明、音響設備
付帯施設	<ul style="list-style-type: none"> • トレーニング施設 • 会議室、ワークスペース

結節空間

- ① メインアリーナ・サブアリーナと連動し、デジタルを活用した多様なイベント
- ② 飲食・物販スペースの設置
- ③ 市内商店街や市内の生産者によるマルシェ等
- ④ コミュニティ活動の場（与野中央公園のイベント等との連携）
- ⑤ 子どもの遊びや運動のためのスペース

想定機能	<ul style="list-style-type: none"> • 飲食・物販スペース、設備 • 防災関連スペース、設備 • メインアリーナ、サブアリーナと連動したイベント等に利用可能なスペース
------	---

施設整備の視点

パブリック・コメントにおけるご意見を踏まえ、基本計画に追加

施設整備の視点

- 施設のコンセプトや役割を果たしつつ、**可能な限りコンパクトな施設整備**を目指す。
- 公園施設であることを踏まえ、構造・デザインについて**園内の緑地等との調和**を目指す。
- 交通集中や騒音の防止等を図り、**周辺環境への影響に配慮した施設整備**を目指す。
- 子どもから高齢者まで、障害の有無を問わず、施設を利用するすべての人が、安全で、快適に過ごせるよう、**ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備**を目指す。

…このほか、想定利用シーン、近隣の施設との連携などを、ご意見に基づき修正

事業手法・スケジュール

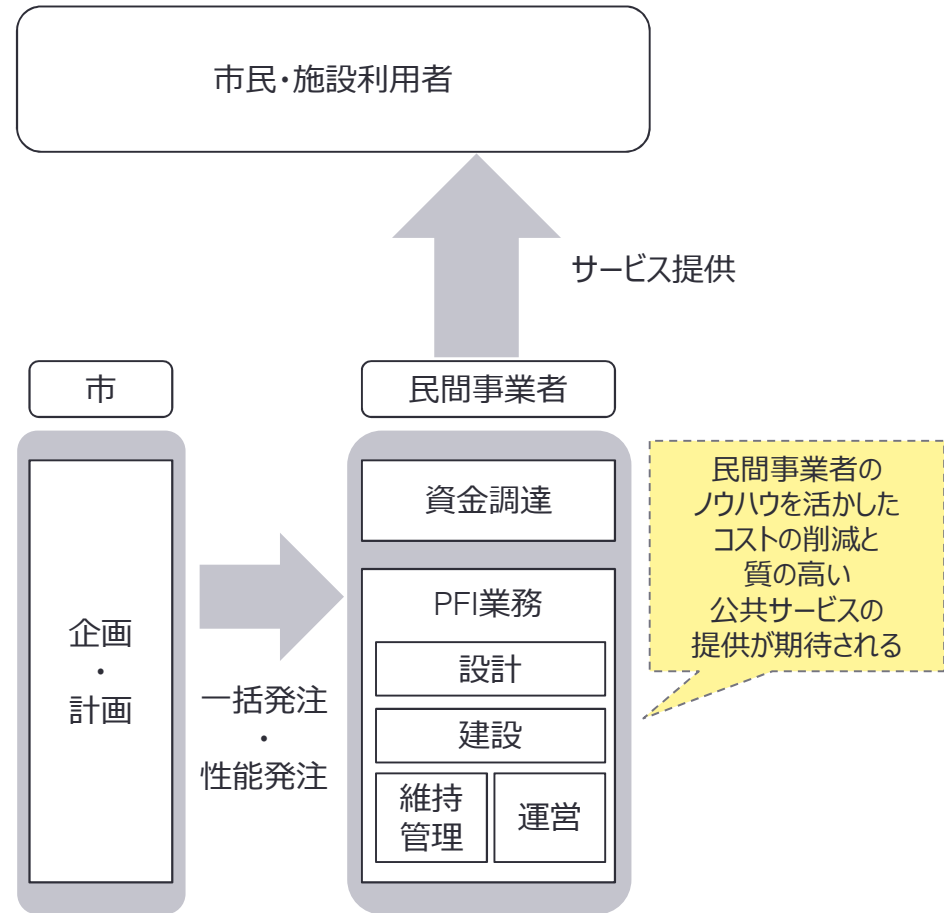
■ PFI 制度 (BTO方式)

- 公共施設等の整備運営を行うにあたり、設計・建設から維持管理・運営までの業務を、長期間にわたり一括して民間事業者委ねる事業手法。
- 民間事業者が持つ経営能力や技術的能力などを活用し、従来手法の公共工事に比べて、**少ない財政負担で、より良い住民サービスを提供**することを目指す。

(出典)「公共施設別公民連携ハンドブック」(中央経済社)

「(仮称)次世代型スポーツ施設」は、現段階の想定で、運営ベースでの黒字を見込む

その一部を整備費に充当することで、より一層の公共負担の縮減を目指す



■ スケジュール

現在再検討中です。

よくいただくご質問への回答

Q. 与野中央公園全体の計画の全体像は？

- A. 鴻沼川西側には、くさはら広場、次世代型スポーツ施設、調節池が整備されます。
調節池の底面利用として、県により草地広場、バスケットボールやアーバンスポーツを楽しめるエリア、沈砂池等が整備されます。

鴻沼川東側は、障害の有無等に関わらず遊ぶことができる「インクルーシブ遊具」の導入によるリニューアルを予定しています。

与野中央通り東側の開設済のエリアは、現状のとおりです。



Q. 緑地はどれくらいの広さになるのか？

A. 鴻沼川西側かつ調節池予定地の北側で、10,000m²程度のまとまった芝生広場を確保する予定です。

(仮称) 次世代型スポーツ施設の周辺にも適切に植栽等の緑地空間を設けることで、14,000m²程度の緑地空間を形成できるものと考えております。

**Q. (仮称)次世代型スポーツ施設が建設されると、
緑地は日陰になると思うが、どのような対策を
考えているのか？**

A. (仮称)次世代型スポーツ施設の設置位置や形状については、
今後、民間事業者からの提案により決まりますが、来場者動線
等も考慮しつつ、日陰の影響を軽減できるような提案を求めてま
いります。

なお、子どもたちが、季節や天候にかかわらず遊びや運動がで
きるスペースを、結節空間に設けられるよう検討してまいります。

Q. 駐車場の数は何台か？

A. 現在の想定では、与野中央公園全体で、約200台程度の駐車スペースを確保する計画としています。

なお、メインアリーナの来場者（観客）には、公共交通機関の利用を積極的に呼びかけてまいります。

- ※ 他の都市型アリーナでも同様の対応がとられています。
- ※ 与野中央公園から徒歩15分（半径1200m）圏内には、約3,000台の民間時間貸駐車場があることを確認しています。

Q. 渋滞対策はどのように考えているのか？

- A. 施設の供用開始までに、市の責任において実施する予定です。
- 一例としては、与野中央通りからの右折による出入場を防止するための環境整備（ポールの設置等）や、最寄駅からの歩行者導動線を誘導することを目的とした標識の設置などを、警察とも相談の上、進めてまいりたいと考えています。

Q. 市民が使える施設になるのか？

A. メインアリーナは「みるスポーツ」の拠点として、市民に皆様にご利用いただくとともに、大規模な市民大会など「するスポーツ」の場所としても活用いただけることを想定しております。

また、サブアリーナについては、「するスポーツ」の場所として、与野体育館の機能を継承してまいります。

さらに、結節空間は、屋外のひろば等と併せて、普段づかいいただける空間としての整備を目指していきます。

Q. 整備予定地の地盤は大丈夫なのか？

A. 地盤調査の結果、現況地盤面から約33m付近より深くに支持層があることを確認しました。

この結果から、施設の整備に当たっては、支持層まで杭を打ち込む「杭基礎」と言われる工法により、工事を進めることになるものと想定していますので、施設の整備は可能と考えています。

Q. 市の財政負担はいくらかかるのか？

A. PFI方式で整備をした場合、30年間の総事業費は、現在価値ベース（※）で換算した場合、約52億円と見込んでいます。

あくまで試算値であり、今後の経済状況等により、変動する場合があります。

（※）将来かかる費用を、現在の価値に換算した価格のこと。

例えば、金利が年2%の場合、今年の100円と来年の102円の価値は同じになります。

本施設のケースでは、30年間で見込む総事業費を、現在（令和4年12月現在）の価値に換算しています。